

令和3年10月8日 地震調査研究推進本部 地震調査委員会
------------------------------------

## 2021年10月7日千葉県北西部の地震の評価（案）

- 10月7日22時41分に千葉県北西部の深さ約75kmでマグニチュード(M)5.9（暫定値）の地震が発生した。今回の地震により埼玉県及び東京都で最大震度5強を観測し、被害を伴った。また、千葉県及び東京都では、長周期地震動階級2を観測した。この地震の発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界で発生した地震である。
- その後、M5.9の地震の震源を含む東西約10km、南北約10kmの領域で、10月8日●時までに震度1以上を観測した地震が2回発生するなど、地震活動は継続している。8日●時までの最大の地震は、8日05時11分頃に発生したM3.6（速報値）の地震である。
- GNS S観測の結果によると、今回の地震に伴う有意な地殻変動は観測されていない。
- 今回の地震の震源付近では、2005年7月23日にM6.0の地震が発生し、東京都で最大震度5強を観測した。この他、1980年9月25日にM6.0の地震が発生するなど、M6前後の地震が時々発生している。最大は1956年9月30日のM6.3の地震である。
- 揺れの強かった地域では、地震発生後1週間程度、最大震度5強程度の地震に注意が必要である。特に、地震発生後2～3日程度は、規模の大きな地震が発生することが多くある。
- 今回の地震が発生した南関東地域は、南側から沈み込むフィリピン海プレートの下に、東側の日本海溝から太平洋プレートが沈み込んでおり、これまでにM7程度の地震が多く発生していることが知られている。「相模トラフ沿いの地震活動の長期評価（第二版）（平成26年4月25日公表）」では、このようなプレートの沈み込みに伴うM7程度（M6.7～M7.3）の地震が30年以内に発生する確率はⅢランク（\*）と評価され、海溝型地震の中では発生する確率が高いグループに分類されている。

\*：海溝型地震における今後30年以内の地震発生確率が26%以上を「Ⅲランク」、3%～26%未満を「Ⅱランク」、3%未満を「Ⅰランク」、不明（すぐに地震が起きることを否定できない）を「Xランク」と表記している。

注：GNS Sとは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般をしめす呼称である。